

令和4年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|---------------------|---|
| 生活科学科 (生活福祉専攻)DP | ① 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。 ② 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。 ③ 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。 |
|---------------------|---|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | |
|----------------|-------------|---|--------|---|---|
| | | | ① | ② | ③ |
| 【人間と社会】 | | | | | |
| 人間の尊厳と自立 | ① | 1. 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解する。 2. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。 3. | ○ | ○ | |
| 人間関係とコミュニケーション | ③ | 1. 他者と関わり生きている自分、自分と関わる他者・社会について主に心理学の視点から理解する 2. 日常生活での自身の行動やこれからの行動を見直す 3. | | ○ | ◎ |
| チームマネジメント | ② | 1. チームで活躍するために必要な力を養うための、チームマネジメントに関する基礎的な知識を身につける。 2. チームワークとは何かを理解し、チームワークに必要なリーダーとフォロワーの役割について説明できる。 3. 介護福祉士の多彩なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。 | ○ | ◎ | ○ |
| 社会学概論 | ① | 1. 生活の機能やライフスタイルの変化について理解する 2. 生活にかかわる家族や地域社会の機能と役割について理解する 3. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解する | ○ | ◎ | ○ |
| 社会と制度の理解 | ① | 1. 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 2. 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解する。 3. | ◎ | ○ | |
| 社会保障論 | ① | 1. 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解する。 2. 社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解する。 3. 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 | ○ | ◎ | ○ |
| 住環境と福祉 | ② | 1. 室内環境調整の重要性や方法を学び、住宅や施設での介護に活かせるようになる。 2. 介護保険での住宅改修事例について学び、具体的要点を理解する。 3. 観光施設におけるバリアフリーの現状と課題を、グループディスカッションを通じてまとめる。 | ○ | ◎ | ○ |
| レクリエーション概論 | ① | 1. レクリエーションインストラクターの理解 2. 基本的手法の理解と獲得をめざす 3. 福祉への応用力をつける | ○ | ◎ | ○ |
| 【介護】 | | | | | |
| 介護の基本Ⅰ | ① | 1. 介護の場面を生活の視点から観察し、考え理解することができる。 2. 「尊厳の保持」と「自立支援」とは何か説明することができる。 3. 障害のある人の生活について理解することができる。 | ◎ | ○ | |
| 介護の基本Ⅱ | ① | 1. 介護サービスの特性と働く場について理解できる。 2. 介護福祉士の役割について理解できる。 3. 高齢者の生活について理解することができる。 | ◎ | ○ | |
| 介護の基本Ⅲ | ① | 1. 介護福祉の現場におけるチームケアの重要性が理解できる。 2. 尊厳を支える介護とは何が具体的に理解できる。 3. | ◎ | ○ | |
| 介護の基本Ⅳ | ① | 1. 生活支援の内容と意義が理解できる。 2. 介護における安全の確保とリスクマネジメントが理解できる。 3. | ◎ | ○ | ○ |
| 社会福祉援助技術 | ① | 1. 福祉・援助のとらえ方を理解する。 2. 社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の定義と体系について理解する。 3. バイステックの7原則について理解する。 4. 個別援助技術の展開過程について理解する。 5. ソーシャルワークの基本的援助技法について理解する。 | ○ | ○ | ○ |

専
門
科
目

令和4年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|---------------------|---|
| 生活科学科 (生活福祉専攻)DP | ① 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。 ② 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。 ③ 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。 |
|---------------------|---|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | |
|------------------|--------------|--|--|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | |
| 専 門 科 目 | リハビリテーション論 | ① | 1. 身体機能の基本要素や老化、疾病、障害を理解する。 | ○ | | |
| | | | 2. 障害が生活に及ぼす影響を理解する。 | ○ | | |
| | | | 3. 自立支援について考察できる。 | ◎ | | |
| | コミュニケーションの基礎 | ③ | 1. コミュニケーションという概念について理解する | ○ | | |
| | | | 2. 利用者とのコミュニケーションの意義を理解する | ○ | | ◎ |
| | | | 3. 自分のコミュニケーションパターンを認識し分析できる | | ○ | ○ |
| | コミュニケーション演習 | ③ | 1. 本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。 | ○ | | ◎ |
| | | | 2. 家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。 | ○ | | ○ |
| | | | 3. 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につける。 | ○ | | ○ |
| | | | 4. 情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 生活支援技術A | ① | 1. 利用者の心身の状況に応じた身支度の介護ができる | ○ | | |
| | | | 2. 自立に向けた移乗・移動の援助が適切に実践できる | ◎ | | |
| | | 3. 睡眠が生活に及ぼす影響を理解し、安眠できる環境状況に配慮できる | ○ | | | |
| 生活支援技術B | ① | 1. 入浴・清潔保持の介護及び身支度の介護について具体的援助を実践できる。 | ◎ | | | |
| | | 2. バイタルサインの意味を理解し、正確な測定ができる。 | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |
| 生活支援技術C | ① | 1. 排泄の介護について具体的援助を実践できる。 | ◎ | | | |
| | | 2. 移乗・移動の介護について具体的援助を実践できる。 | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |
| 生活支援技術D | ① | 1. 睡眠及び終末期の介護について具体的援助を実践できる。 | ◎ | | | |
| | | 2. | | | | |
| | | 3. | | | | |
| 生活支援技術(住) | ① | 1. 鹿児島県の高齢者の住宅事情について学び、住宅の課題を理解する。 | | ○ | | |
| | | 2. 生活行動と生活空間の関係について学び、住宅における介護予防と住宅改修の要点を理解する。 | ◎ | | | |
| | | 3. 介護保険における住宅改修の要点について理解する。 | ○ | | | |
| 生活支援技術(食) | ① | 1. 適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得する。 | ◎ | | | |
| | | 2. 学習した知識・技能を生かし具体的な食事サービス提供に繋げる。 | ○ | ○ | | |
| | | 3. | | | | |
| 生活支援技術(衣) | ① | 1. 被服のもつ多様な機能を理解しそれに応じた被服選択ができる。 | ○ | | | |
| | | 2. 被服の管理に必要な知識・技術を身につける | ◎ | | | |
| | | 3. | | | | |
| 介護過程Ⅰ | ① | 1. 介護過程とは何か理解することができる。 | ◎ | | | |
| | | 2. 介護過程の必要性を理解し、介護実習等の実践に活かすことができる。 | | ○ | | |
| | | 3. ICFの視点に基づく生活機能の観察や情報収集、記録ができる。 | ○ | | | |
| 介護過程Ⅱ | ① | 1. 介護過程の展開について説明できる。 | ○ | | | |
| | | 2. 根拠に基づいた介護を提供するための情報を収集でき記録することができる。 | | ○ | | |
| | | 3. 介護過程のアセスメントについて理解することができる。 | ◎ | ○ | | |
| 介護過程Ⅲ | ① | 1. 一連の介護過程の展開ができる。 | ○ | | | |
| | | 2. 利用者の「尊厳の保持」「自立支援」を理解した、介護計画を作成することができる。 | ◎ | | | |
| | | 3. 定められた書式を正しく理解し、記入することができる。 | ○ | | | |
| 介護過程Ⅳ | ① | 1. 計画した介護を利用者の状況に応じて適切に実施できる | ◎ | | | |
| | | 2. 介護過程において評価とは何か理解し、自身で実施した介護を適切に評価することができる | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |

令和4年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|---------------------|---|
| 生活科学科 (生活福祉専攻)DP | ① 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。 ② 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。 ③ 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。 |
|---------------------|---|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | |
|-------------|-------------|---|--------|---|---|
| | | | ① | ② | ③ |
| ケアマネジメント | ② | 1. 介護保険制度とケアマネジメントの関係性を理解する。 | ○ | ○ | |
| | | 2. 施設サービス計画書の作成方法を身につける。 | ○ | ◎ | |
| | | 3. サービス担当者会議について理解する。 | ○ | ○ | |
| | | 4. 利用者の状態に応じた介護過程を理解し展開することができるようになる。 | ○ | ○ | |
| 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ | ② | 1. 介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 | | ◎ | |
| | | 2. 実習後の振り返りを通じて、実習での学びをまとめることができる。 | | ○ | |
| | | 3. 様々な生活の場における個別ケアを理解できる。 | ○ | ○ | ○ |
| 介護総合演習Ⅲ | ② | 1. 実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 | | ◎ | |
| | | 2. 実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。 | | ○ | |
| | | 3. 各種の福祉用具を知り、使用方法を理解できる。 | ○ | ○ | |
| 介護総合演習Ⅳ | ② | 1. 実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 | | ○ | |
| | | 2. 実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。 | | ○ | |
| | | 3. 専門職としての介護福祉士の役割についてまとめることができる。 | ○ | ◎ | ○ |
| 事例研究(ゼミナール) | ② | 1. 事例研究の目的について理解できる | | ◎ | |
| | | 2. 事例研究の書き方を理解し、研究テーマを設定できる | ○ | ○ | |
| | | 3. 事例研究をまとめることができる | ○ | ○ | |
| 介護実習Ⅰ | ② | 1. 多様な事業所の概要や役割を理解し、地域における利用者の生活や介護職員の業務内容の実際を知る。 | ○ | ◎ | |
| | | 2. コミュニケーション屋生活支援技術を用いて介護を行い、利用者特性を把握できる | ○ | | |
| | | 3. 利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る | | ○ | ○ |
| | | 4. 多職種協働や関係機関との連携を通して介護福祉士の役割について理解する | | ○ | ○ |
| 介護実習Ⅱ | ② | 1. 施設の概要や役割を理解し、利用者の生活・障害像を理解できる | ○ | ○ | |
| | | 2. 生活支援技術を用いて介護を行い、個別支援の在り方を知る | | ○ | ○ |
| | | 3. 利用者の特性と現状を把握することができる | | ◎ | |
| 介護実習Ⅲ | ② | 1. 一連の介護過程の展開を行うことができる | | ◎ | |
| | | 2. 各種の住設備機器や福祉用具を知り、その使用方法を理解し、活用できる | | ○ | |
| | | 3. | | | |
| 介護実習Ⅳ | ② | 1. 一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる | | ◎ | |
| | | 2. チームの一員としての役割を自覚し、総合的判断力を身につけ、介護業務を遂行できる | | ○ | ○ |
| | | 3. | | | |

専門科目

【こころとからだのしくみ】

| | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|
| 発達と老化の理解 | ① | 1. 発達という概念を理解し、他者に説明できる | ◎ | | |
| | | 2. 老化による心理・身体機能の変化について理解し、他者に説明できる | ○ | | |
| | | 3. 高齢期の発達を支える援助について考えることができる | | ○ | ○ |
| 高齢者の介護 | ① | 1. 老化に伴う身体的変化と特徴を理解し、実践に備える | ◎ | | |
| | | 2. 老化に伴う心理的变化と、日常生活への影響を理解する | ○ | | |
| | | 3. 高齢者に多い疾病と、介護の留意点を習得する | ○ | | |
| 認知症の理解 | ① | 1. 認知症の医学的知識について理解を深めることができる | ◎ | | |
| | | 2. 認知症介護を理解し家族支援のあり方を考えることができる | ○ | ○ | |
| | | 3. | | | |
| 認知症者の介護 | ② | 1. 認知症者の理解を深め、その人らしさを生かした介護の基本を身につけることができる | | ◎ | |
| | | 2. 家族支援と地域サポートについて学び、認知症者が安心できる生活支援を考えることができる | | ○ | |
| | | 3. | | | |

令和4年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|---------------------|---|
| 生活科学科 (生活福祉専攻)DP | ① 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。 ② 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。 ③ 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。 |
|---------------------|---|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | |
|----------------------|----------------|---|----------------------------------|---|---|--|
| | | | ① | ② | ③ | |
| 障害の理解 I | ① | 1. 障害者支援に求められる基本的な考え方・概念を説明することができる。 | ◎ | | | |
| | | 2. 身体面に障害のある人の特徴を理解し、適切な生活支援の在り方を考えることができる。 | ○ | ○ | | |
| | | 3. | | | | |
| 障害の理解 II | ② | 1. 身体的、知的、精神的な面に障害のある人および難病のある人の特徴を理解し、適切な生活支援の在り方を考えることができる。 | | ◎ | | |
| | | 2. 障害のある人のサポート環境について理解する。 | | ○ | | |
| | | 3. | | | | |
| こころとからだのしくみ I (医学一般) | ① | 1. 基本的なからだのしくみを理解できる | ◎ | | | |
| | | 2. 高齢者のこころとからだの状態を理解できる | ○ | | | |
| | | 3. サービス提供上重要な疾患についての知識を習得することができる | ○ | | | |
| こころとからだのしくみ II (精神) | ① | 1. 精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解する | ◎ | | | |
| | | 2. 被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる | ○ | | | |
| | | 3. 残存能力や意欲を引き出す援助の方向性を考えることができる | ○ | | ○ | |
| 介護技術の基礎 | ① | 1. 介護技術の根拠となるこころとからだのしくみについて理解できる | ◎ | | | |
| | | 2. 心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的なことが理解できる | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |
| ターミナルケア | ③ | 1. 高齢者の身体変化を知る | ○ | | | |
| | | 2. 癌の病態変化を知る | ○ | | | |
| | | 3. 介護の現場に役に立つ緩和ケアの基本的態度を身につける | | | ◎ | |
| 専門科目 | 【医療的ケア】 | | | | | |
| | 医療的ケア | ① | 1. 医の倫理について説明ができる | ○ | | |
| | | | 2. 保健医療システムと介護職との連携について説明ができる | | ○ | |
| | | | 3. 医療的ケアの安全な実施について説明ができる | ◎ | | |
| | 経管栄養 | ① | 1. 消化器系の役割・機能について説明ができる | ○ | | |
| | | | 2. 経管栄養のしくみ、注入内容、安全な実施に関する説明ができる | ◎ | | |
| | | | 3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる | ○ | | |
| | 喀痰吸引 | ① | 1. 呼吸器のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる | ○ | | |
| | | | 2. 喀痰吸引のしくみ、安全な実施に関する説明ができる | ◎ | | |
| | | | 3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる | ○ | | |
| 経管栄養演習 | ① | 1. 胃ろう・腸ろう及び経鼻における経管栄養を一人で実施できる | ◎ | | | |
| | | 2. 救急蘇生法を一人で実施できる | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |
| 喀痰吸引演習 | ① | 1. 口腔内及び鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を一人で実施できる | ◎ | | | |
| | | 2. | | | | |
| | | 3. | | | | |
| 医事実務士 | | | | | | |
| 基礎医学関連科目 | | | | | | |
| 薬理の基礎 | ① | 1. 薬理作用の一般的概念を理解し、説明できる | ◎ | | | |
| | | 2. 薬物動態、薬物相互利用の基本的概念を理解し、説明できる | ○ | | | |
| | | 3. 薬害・乱用薬物について学び、説明できる。 | ○ | | | |
| | | 4. 身近に接する代表的な薬について学び、その薬理作用・有害作用を説明できる | ○ | | | |
| 人類学 | ① | 1. ヒトの生物学的・生態学的特徴を知り、社会生活において、疾病予防や健康増進の大切さを知る。 | ◎ | | | |
| | | 2. 病気の流行や社会の衛生状態の歴史の変遷の実態を知り、現代日本の健康増進・疾病予防の取組みを理解する。 | ○ | | | |
| | | 3. | | | | |

令和4年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|---------------------|---|
| 生活科学科 (生活福祉専攻)DP | ① 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。 ② 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。 ③ 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。 |
|---------------------|---|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | |
|------------------|-------------|---|--------|---|---|
| | | | ① | ② | ③ |
| 医事・実務関係科目 | | | | | |
| 医療事務総論 | ① | 1. 医療の基本的な理解と医療事務全般にわたる基礎知識を学習する | ◎ | | |
| | | 2. 医療事務に関する諸規則についての知識を習得する | ○ | | |
| | | 3. 医療知識を身につけ、診療録及び病院の業務の流れを理解する | ○ | | |
| 医療事務演習 | ① | 1. 診療行為における診療報酬算定要件を理解する | ○ | | |
| | | 2. 診療報酬明細書の作成及び請求について理解する | ○ | | |
| | | 3. 医療費の仕組みと診療報酬点数の算定を行う技術を身につける | ◎ | | |
| 介護保険実務士 | | | | | |
| 介護事務総論 | ① | 1. 介護保険制度の報酬請求の仕組みと、請求事務について理解できる。 | ◎ | | |
| | | 2. 介護保険と医療保険との関係について理解できる。 | ○ | | |
| | | 3. | | | |
| 介護事務演習 | ① | 1. 各種サービスを組み合わせた計画を作成できる。 | ○ | | |
| | | 2. 介護保険制度の報酬請求の仕組みが理解でき、請求処理ができる。 | ◎ | | |
| | | 3. | | | |
| 【関連科目】 | | | | | |
| 情報処理 | ① | 1. ICTの基本的な操作技術を習得する | ◎ | | |
| | | 2. インターネットを理解し活用できるようになる | | ○ | |
| | | 3. コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる | | ○ | |
| レクリエーション活動援助法Ⅰ | ② | 1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する | | ◎ | |
| | | 2. レクリエーション種目（ニュースポーツ）の特性と指導法を理解する | ○ | | |
| | | 3. スポーツ大会の企画と運営方法について実践的に学ぶ | | ○ | |
| レクリエーション活動援助法Ⅱ | ② | 1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する | | ○ | |
| | | 2. レクリエーション活動援助能力の習得と向上を図る | | ◎ | |
| | | 3. グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める | | | ○ |
| レクリエーションワーク | ② | 1. 介護現場で簡単な音楽活動を指導できるようになる技術を習得する。 | | ◎ | |
| | | 2. 様々な製作活動を通して介護現場で利用者と共に表現活動を行うための基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう。 | | ○ | |
| | | 3. | | | |
| 介護ホスピタリティ | ② | 1. 障害や認知症のある方の理解および具体的支援方法を身につけることができる。 | ◎ | | |
| | | 2. 職業人としての身だしなみの基本を身につけることができる。 | ○ | | |

専
門
科
目